

# 日本人は淫乱、と世界中に広めた『毎日新聞』

卑猥な『日本の紹介』が海外へ6年以上も流され続けていました。以下がほんの一例です。

- 日本人女性の 55%は、出会ったその日に男と性行為をする。
- 日本人の母親は中学の息子が入学試験に合格するため、性的関係を結ぶ。
- ハンバーガーを食べる日本の女子高校生達は日本で一番の色情狂になった。
- 日本では看護師になると一般的に、大人のオモチャを仕事中に使う。
- 六本木の某レストランで日本人は食前に、調理される動物とワイセツ行為をする。

「B 級メディアの類ではない。日本を代表する新聞のひとつ、であるはずの毎日新聞の英字ウェブサイトで、極端に歪められた日本文化が、事実であるかのごとく世界に配信されていた。」（週刊ポスト 2008.7.11 号の 54 ページ冒頭より引用）



週刊新潮7月3日号(6月26日発売) 赤枠で囲まれた部分



週刊ポスト 2008.7.11 号(6月30日発売)

この事件が国内で広く知られ始めたのは6月20日夜。記事が卑猥すぎて、テレビで具体的な内容が報道される可能性は低いですが、印刷メディアが取り上げ始めました。

毎日新聞社は25日朝刊にて謝罪文を掲載。しかし、上に列挙した内容はあくまで、日本の社会や風俗の一端を紹介したものだとして主張しました。あなたもそう思いますか？

海外では、これぞ真実の日本の姿！とばかりに英語以外にも翻訳されて、歪んだ日本紹介が事実と誤解され、流布され続けていたのです、6年以上にもわたって。

毎日新聞社はサイト閉鎖、謝罪文掲載、担当部署幹部を昇進させて減俸。海外での日本のイメージ回復を一切しないまま、終わらせようとしています。



夕刊フジ(6月29日発売) 赤枠内

## 【今回の事件は、なぜ問題なのか？】

### 1. 日本の週刊誌の記事を引用しただけ、という責任転嫁。

毎日新聞社は「国内の週刊誌などを引用し、日本の社会や風俗の一端を紹介してきた」が、内容が低俗だと批判を受けて記事を削除しサイトも閉鎖した、と謝罪文に記しています。引用された雑誌には「実話〇〇」「実話××」といった、いわゆる成人向けの実話系雑誌が少なからずあり、記事とは名ばかりの扇情的な創作があります。それらの卑猥な記事を多数選んで英文に意識し、海外発信していたのです。

仮に、実話雑誌のサイトから海外発信したのであれば、胡散臭い記事だと思う外国の方も多いでしょう。しかし、そのニュースをわざわざ英文にして配信したのは、日本を代表する報道機関のひとつである大手新聞サイトでした。引用だから責任はない、というのは詭弁です。他誌から下劣な記事を選び続けた点にこそ問題があるのです。

### 2. 「hentai」に興味ある人達を自社サイトに呼び寄せていた事実。

ウェブページの記述のひとつに、検索用のキーワードを設定できる META タグというのがあります。毎日新聞の英文サイトではそのキーワードに「japanese girls」「geisha」「hentai」が含まれていました。Google 等の検索サイトで「hentai」と入力した人達を「Mainichi Daily News」に誘導する設定を行っていたのです。簡単にいえば、「japanese girls」「geisha」「hentai」に興味がある人、サイトにいらっしやい！ということ。META タグによる検索用キーワードの設定は大手企業サイトの場合、一人で実行できるような行為ではないのです。記事だけでなくキーワードの設定についても、組織としてのチェック機構が働かなかったのか、まだ詳しい説明がなされないままです。

### 3. 引用元の記事にはない、改ざんを行った英文記事も発覚。

恣意的に改悪して英文記事が書かれた疑惑も浮上してきました。「サイゾー8月号によればパールハーバーと南京大虐殺の後継である政府省庁」と、あたかも引用のように書かれてしまった当該雑誌の元記事には、一切そのような記述がなかった事が判明しました。他記事を引用しただけ、という責任転嫁もひどいですが、その言い逃れさえ通らない事態が明るみになり、次はどんな言い訳をするつもりでしょうか？

### 4. 長年の記事配信により、日本人が侮蔑される下地をつくった罪。

長きにわたって、歪んだ日本人像を世界中にバラまき続けた悪影響は、考えるだけでも恐ろしいものがあります。記事はネット上で英語以外にも翻訳、転載され、海外諸国に広まっている模様です。たとえば、最初に挙げた看護師の記事はロシア語に直され、事実であるかのように扱われていました。海外の人達が日本女性を侮蔑する下地を、毎日新聞は地道に築き上げてきたのです。日本のイメージを歪曲させた償いとして、全世界に向けて、それこそ各国の大手報道機関がトップニュースで取り扱うぐらいの勢いで、「毎日新聞社は成人向け雑誌等の扇情的な内容を報道記事として見なし、あたかも日本の一般的な風俗であるかのように、6年以上も世界中へ紹介し続けてきました」と発信すべきです。世界中に知れ渡るまで、イメージ回復を図るよう努力を続け、告知し続けるべきです。これは日本人の恥ではなく、毎日新聞社の恥だったのだと。

度重なる食品偽装。ミートホープは、船場吉兆は、謝罪すればすべて終了でしたか？問題サイトを消し、簡潔な謝罪をすれば解決、と毎日新聞社は考えているのでしょうか？謝罪後、担当部署の局長は取締役役に、担当部署の常務は取締役社長に昇進しました。

事件の詳細や、現時点でのメディア報道、毎日新聞社の対応等については「毎日新聞問題の情報集積 wiki」<http://www8.atwiki.jp/mainichi-matome/> へどうぞ。携帯の場合は、すぐ右の QR コードからもアクセスできます。

また、問題記事の内容の詳細については「毎日新聞の英語版サイトがひどすぎる まとめ@ wiki」<http://www9.atwiki.jp/mainichiwaiwai/> でもご覧いただけます。どのような記事が配信されていたのか悲しくなるほどに分かります。

